



(三) 四號業ハ何等ノ苦痛ヲ蒙ラズト雖然ニ等ノ境況ニ同様ニ一八九九
 (元十表三履)ニ値下らんヲ九表五履ニ迄身ニル
 可協定ニ協定セリ

一方残工側ニ於テハ大部今ハ四號業等ヲ繼續ニ結束維持ニ努メ今社
 一助則業ニ対抗シ屋外運動等ヲ試ミテ之ヲモテ氣勢口印云
 十三日如キハ四號業等工組合長宮崎勝之介副組合長瀬戸哲夫ヲ中心
 トシ一部硬派ノ残工ハ四號業等ニ身全シ難漢ニ耽リ居ル状態ニシテ不協ノ行動
 云(目ハ自任陛下内閣中野ヲ以テ濫權中ナリト揚言シテ) 且今今社
 側ノ自界息ヲ窺ヒ居ル構構ニテ本夕(十三日夕)今社側ノ発表ヲ見ルハハ
 事解決ヲ告ぐるモノト觀測セリ
 (三月十五日報)

大正十一年三月十五日

(兵部存稿)

燐子残工之年儀(第四報)

三月十五日神戶商業會議決ニ於テ今社側協議ノ結果即
 今四履位上(前報五履位ノ誤リ)ヲ発表スルヲ以テ大勢ハ漸良ニテ表
 示スルニ至リ日本商會社残工ハ更ニ要求書ヲ提出スル然レ共残工ノ
 大部今ハ就業セルヲ以テ之ノ儘ニ任置スルモノト云フ

(三月十八日報)